

「エリマキツチグリは“えり巻き”を気にしない」

今回の通信は、エリマキツチグリというキノコについてのお話です。

エリマキ（襟巻き）という名前に翻弄されてはいけません

翻弄されてはいけないというのは、一体、どういうことでしょうか？

その前に、エリマキツチグリというキノコを皆さんはご存知でしょうか？

正直なところ、エリマキツチグリはあまり有名ではないキノコの部類に入ります。そのため知らないかたも多いかと思えます。

エリマキツチグリは、分類学的に言えば、ヒメツチグリ科ヒメツチグリ属のキノコです。ヒメツチグリ科ヒメツチグリ属と言うと、ちょっと堅苦しくなりますね。そこで、言い換えて、ヒメツチグリの仲間と呼ぶようにします。

ヒメツチグリの仲間は一体どんなキノコなのでしょう？
そこで、通信003で紹介した「日本のきのこ」を確認してみます。
ヒメツチグリの仲間は506～507ページに掲載されています。

日本のきのこに掲載されているヒメツチグリの仲間

 <p>ヒメツチグリ <i>G. muscivora</i> (Fr.) Karst. 大塚山 伊丹撮影</p>	 <p>トカリアツチグリ <i>G. asarifolium</i> (Fr.) Karst. 伊丹撮影</p>	<p>ホコリタケ目 LYCOPERDALES 球状で無柄もしくは有柄。胞子は2〜4層。グレバ(基本体)は熟後、薄赤と胞子からなる粉状塊となる。 ヒメツチグリ科 Geastraceae 外皮は2〜3層、層内に薄い肉質層をもち星形に裂開。柱軸はグレバの中央まで伸びる。内皮は環孔を離れ、粉状胞子を飛ばす。 ヒメカムムツチグリ <i>Geastrum minus</i> (Pers.) Fisch. ヒメツチグリ属、小形菌。幼菌は球形で砂の地中にあるが、熟体変をあらわし、外皮を1〜3年の長期に開き、アーチ形に開曲して立ち、内皮の孔縁は線線状。白色菌糸を帯び短柄。首輪(円環)がある。柱軸はこぶ状で、胞子は球形、しばしば帯びる。薄赤の輪は胞子より大。秋、針葉樹林の落葉上に群生する。</p>	<p>シロツチガキ <i>G. fibrillatum</i> (Fr.) Fisch. ヒメツチグリ属。幼菌は球形で淡赤褐色。熟後、外皮は裂けて3〜10片に基本に開き、白色の内帯色。裂開して下部に巻き込む。内皮は線線状。初期白色の右法褐色。円環は不明瞭。孔縁はささくられる。夏〜秋、林内の落葉上に群生する。 エリマキツチグリ <i>G. triplex</i> (Jungb.) Fisch. ヒメツチグリ属、大形菌。幼菌は球形。菌部に薄皮状の毛をもち褐色〜緑褐色。外皮は4〜7片に裂けて星形。肉質の内帯が裂けて露出した内皮をえり巻き状の形に開く。円環は不明瞭。孔縁は扇形に裂けてささくられる。夏〜秋、林内の落葉の多い地上に群生する。</p>	 <p>ヒメツチグリ <i>G. muscivora</i> (Fr.) Karst. 伊丹撮影</p>
 <p>ツルツチガキ <i>G. rufoscurum</i> (Fr.) Karst. 伊丹撮影</p>	 <p>ヒメツチグリ <i>G. fibrillatum</i> (Fr.) Karst. 伊丹撮影</p>	<p>トカリアツチグリ <i>G. asarifolium</i> (Fr.) Karst. ヒメツチグリ属、大形菌。幼菌は地中に発生し、クワイ形で菌部は円筒状に突き出す。熟後、外皮は6〜7片に裂け、半ばまで開き、裂片の先端がねじれる。孔縁は突出し、線線状で毛を帯び、円環は不明瞭。胞子はしばしば帯びる。夏〜秋、落葉林内の落葉内に群生する。 ヤブツチガキ <i>G. rufoscurum</i> (Fr.) Karst. ヒメツチグリ属、大形菌。幼菌は球形。熟後、外皮は6〜9片に開いて、アーチ形になり立ち、線線状の孔縁。外皮は赤褐色で乾燥するとはがれ、その内帯は厚い肉質で5mm。内皮には円環があり、孔縁はささくられる。夏〜秋、落葉上に群生する。</p>	<p>ヒメツチグリ <i>G. muscivora</i> (Fr.) Karst. ヒメツチグリ属、小形菌。幼菌は球形で約0.5〜1cm。マット状菌糸から生じ、表面は褐色の綿毛でおおわれる。外皮は5〜7片に裂け、半開きとなりコップ状に内皮を包む。内皮には円環があり、孔縁は突出し、線線状に裂ける。夏〜秋、広葉樹〜針葉樹の落葉上に群生する。 ツクツチガキ <i>G. saccatum</i> (Fr.) Fisch. ヒメツチグリ属。幼菌は球形。時に宝珠形で径1〜1.5cm。淡褐色の綿毛を発生する。外皮は5〜7片に裂け、半開きとなり内皮を包む。裂片の先端は乾燥するとねじれる。二つに裂けることが多い。内皮は円環があり、孔縁は線線状で円環状。夏〜秋、林内落葉上に散生する。</p>	 <p>ツクツチガキ <i>G. saccatum</i> (Fr.) Fisch. 伊丹撮影</p>

ヒメツチグリの仲間はちょっと変わった形をしていますね。

ヒメツチグリの仲間がどういうキノコなのか気になると思います。
しかし、ここでは、そのことは省略させていただきます。
また、次回以降の通信にご期待ください。

さて、「日本のきのこ」にはエリマキツチグリが掲載されているのでしょうか？

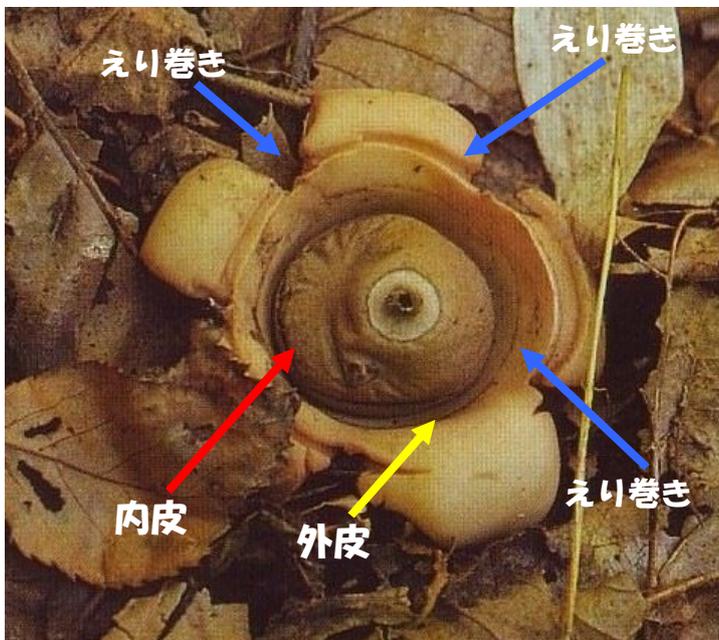
さきほど申しましたように、ヒメツチグリの仲間は有名ではありません。
ですが、ヒメツチグリの仲間の中では、名前と形が変わっているエリマキツチグリが一番有名です。

そのため、図鑑にはよく掲載されています。

もちろん、「日本のきのこ」にも掲載されています。

そこで、「日本のきのこ」のエリマキツチグリの写真と解説を拡大してみます。

「日本のきのこ」のエリマキツチグリの写真と解説



エリマキツチグリ

G. triplex (Jungh.) Fisch.

ヒメツチグリ属。大形菌。幼菌は球形、頂部に^{くちばし} 嘴状突起をもち褐色～緑褐色。外皮は4～7片に裂けて星形、肉質の内層が割れて袋形の内皮をえり巻き状盃形に囲む。円座は明瞭、孔縁盤は短円錐形でささくれる。夏～秋、林内の落葉の多い地上に群生する。

- 青色の矢印で示したのがえり巻き
- 黄色の矢印で示したのが外皮
- 赤字の矢印で示した内皮

エリマキツチグリはちょっと誤解されているところがあります。
それはどこかと言えば、“エリマキ”という名前にあります。

写真右側の解説を見ると、「えり巻き状杯形に囲む」と書かれている部分がありますね。

これは、どういう事でしょうか？

まず、外皮の表面が裂けてえり状となります。

すると、裂けた外皮のえり状の部位が、内皮を囲んでいるようになります。

ということは、外皮の表面が内皮を囲むような形をしているため、えり巻き状に見えます。

こういうことですね。

「エリマキツチグリはえり巻き状という変わった形の特徴をされていて覚えやすい！」
と思ったりしませんでしたか？。

しかし、えり巻きに騙されてはいけません。

えり巻きがないエリマキツチグリもあります

この下の写真はすべてエリマキツチグリです。



どうですか？

えり巻きはありますか？

右上の写真はややえり巻き状になっていますが、それ以外はえり巻きがありませんよね。

えり巻きは外皮が反り返らないとできないみたいです。

ということは、写真のように、まだ、若い状態ではえり巻きにはなりません。

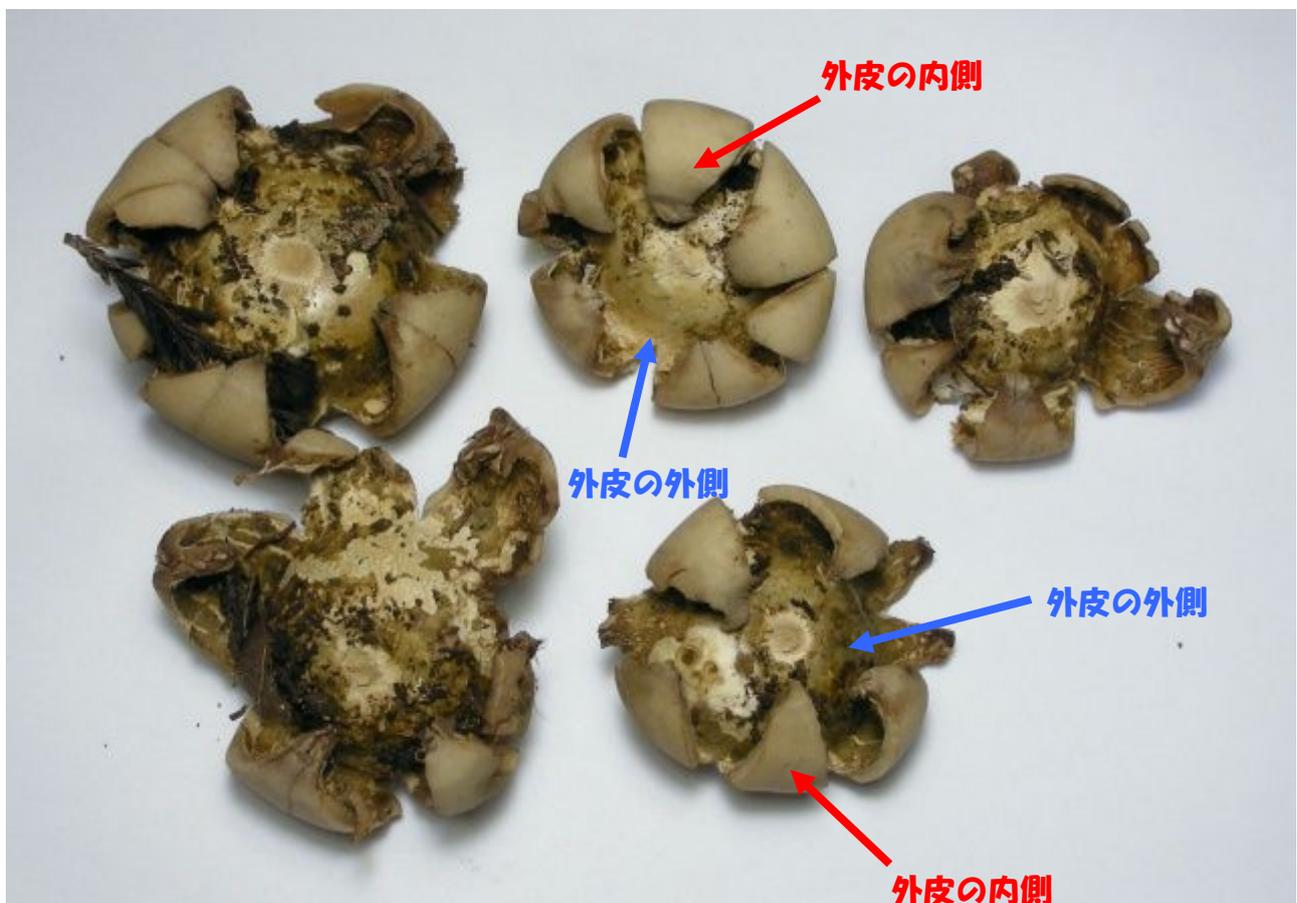
そうすると、えり巻きがない状態でどこを見てエリマキツチグリと見分ければいいのでしょうか？

それは外皮の外側の色です

ヒメツチグリの仲間は外皮の外側の色が結構重要な特徴です。
ヒメツチグリの仲間は、裏返して、外側の色が何色なのかを確認してください。

エリマキツチグリの外皮の外側の色は緑色系です

エリマキツチグリの外皮の外側の写真です



写真ではわかりにくいかもしれませんが、緑色を帯びていますよね。
これがエリマキツチグリの大きな特徴です。

わかりやすいように、ヒメツチグリの仲間のヒナツチガキというキノコと比べてみました。

エリマキツチグリ



ヒナツチガキ



エリマキツチグリは緑色系、ヒナツチガキは赤茶色系です。
全然違いますね。

エリマキツチグリはえり巻きよりも外皮の外側の色が重要です。

日本のヒメツチグリの仲間の中で、外皮の外側の色が緑色系のものは、エリマキツチグリだけのようです。

今回のエリマキツチグリのように、キノコの名前は変わった名前もたくさんあります。
エリマキツチグリの他では、ヌルテという木以外にも発生するヌルテタケというキノコがあります。

「ヌルテタケに似ているけど、ヌルテ以外の木から発生しているから違うのかな～」
と、名前が特徴的であるとその名前に翻弄されてしまうこともよくあります。

「エリマキがないから、エリマキツチグリではないのかな～」
エリマキツチグリの場合は「エリマキ」というその名前に翻弄されてしまいますね。

名前はキノコを覚えるために必要ですが、その名前がキノコの一番の特徴を表しているわけではありません。

名前に惑わされず、図鑑に記述されているキノコの特徴を確認するようにしましょう！

エリマキツチグリは外皮の外側が緑色かどうかを確認してください

えり巻き”は気にしなくてもいいですよ(^~)

